

令和5年第4回国見町議会定例会 行政報告（抜粋）

令和5年6月28日

次に、くにみ学園基本構想について申し上げます。

この構想については、私が公約として掲げた認定こども園の検討を進める中で、保護者の声、幼小、小中のつながりの課題、教育施設のあり方の課題にも目を向けたときに、保幼小中の保育・教育について広く検討をすべきとの考えに至り、国見町の保育と教育が目指すべき基本理念として策定を進めてきたものです。

しかし、高規格救急自動車の件と併せて行った住民説明会では、「構想は企業側からの提案なのではないか」といった意見が出され、このことを再三説明しましたが、十分に理解をいただけませんでした。

また、「議論や説明が不足している」、「建設費用や管理費用、財源が不明」、「用地選定や跡地利用はどうするのか」、「一体的整備ありきなのか」といった意見が出される一方、「少子化だからこそコンパクト化の検討が必要」、「他市町村の人から国見の教育は遅れていると言われた。子どもたちのために良い教育環境を整備してほしい」、「財源は、文部科学省補助金のほか約7割が補てんされる有利な過疎債の活用もあるのではないか」といった意見も出されました。

その後、5月11日には幼小中PTA連絡協議会から「保護者の意見をしっかり聞いて進めてほしい」との要望もいただいています。

子育てや教育の環境整備の検討は、行政、保護者、町民、議会が一体となって進めるべきものと考えます。

これからの国見町の子育てと教育の理念を検討するためのたたき台としての基本構想策定に向け、策定委員会を中心に一所懸命に取り組んできましたが、今の状況は私たちが望んでいたものではありません。その要因の一つは、議論や説明が不足していたことと真摯に受け止めていません。

このため町は、このままくにみ学園基本構想を基にした整備計画を進めていくことは困難と判断し、基本構想は中間報告を以って一つの区切りとすることとしました。現時点での「くにみ学園基本構想（中間報告）」を基にした整備計画は一旦凍結し、ゼロベースからの議論を進めるべく仕切り直すべきと判断しました。

しかし、国見町の少子化が加速しているからこそ、また、子どもは国見の大事な宝との認識を持っているからこそ、私たちの大事な子どもと教育現場の課題、子育て環境、子育て施策、さらには公共施設のあり方にも関係する教育施設のあり方についての議論を継続することは、保護者、町民、議会ともに異論はないものと思います。

基本構想は中間報告を以って一つの区切りとし、併せて現時点での「くにみ学園基本構想（中間報告）」を基にした整備計画は一旦凍結します。改めて仕切り直してゼロベースから広く町民の声に耳を傾け、行政、保護者、町民、議会が一体となった新たな枠組みによる検討を進め、その内容は必要に応じて「教育ビジョン」や「個別施設計画」に反映することとし、子育てと子どもたちの学びの質を向上させる施策につなげていくこととします。